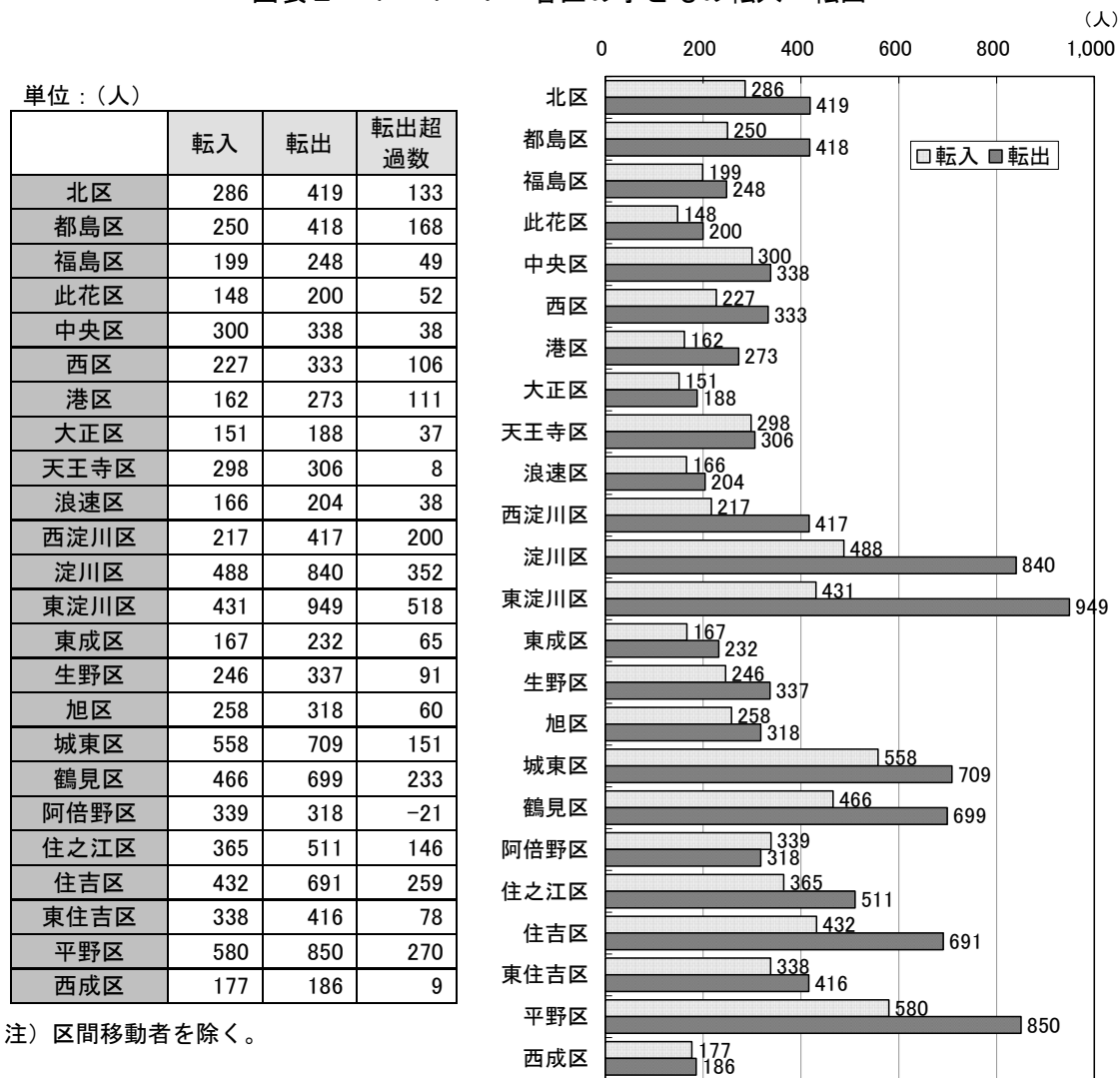


(4) 子ども（0～14歳）の転入・転出

「第6回大阪市人口移動要因調査（平成20年度）」により、平成20年度中の移動状況を見ると、各区における子ども（0～14歳）の転入・転出の状況について、転入数が最も多い区は、平野区が580人、城東区が558人、淀川区が488人、鶴見区が466人、住吉区が432人となっている。また、転出数が多い区は、東淀川区が949人、平野区が850人、淀川区が840人、城東区が709人、鶴見区が699人となっており、転出の多い区は、転入も多い傾向にある。

転出超過数（転出数－転入数）をみると、阿倍野区を除くすべての区で転出超過になっているが、中でも転出超過数が多い区は、東淀川区が518人、淀川区が352人、平野区が270人、住吉区が259人となっており、市の北東部及び南東部の区が子どもの転出超過数が多い。

図表2-1-4-7 各区の子どもの転入・転出



(5) 転入の前住地・転出先

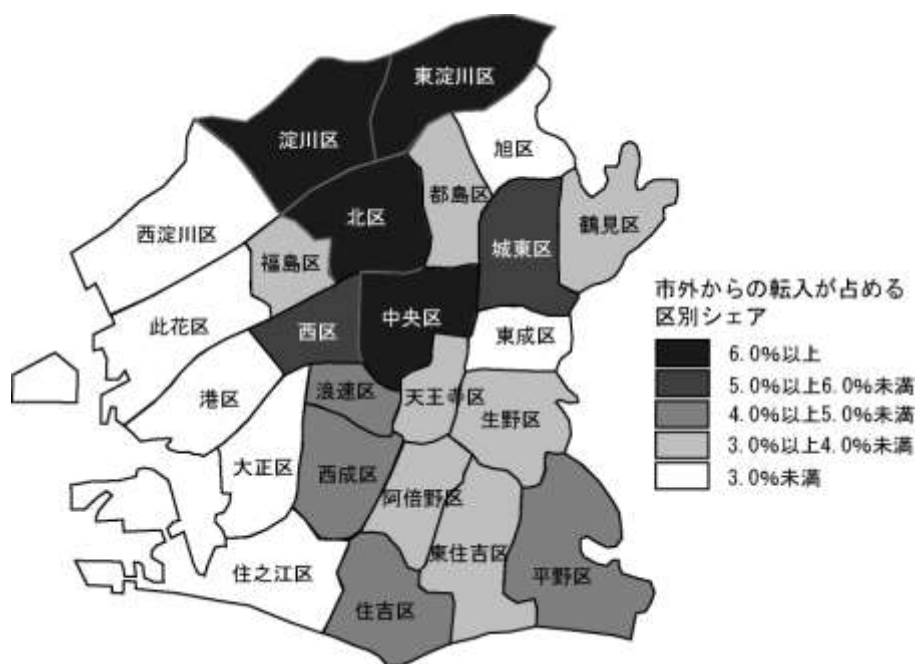
ア. 各区の転入の前住地

前項と同様に、本項においても「第6回大阪市人口移動要因調査(平成20年度)」より、平成20年度中の転入の前住地についてみると、市外からの転入は、淀川区が9,322人(市外からの転入者に占める構成比9.2%)と最も多く、東淀川区7,917人(同7.8%)、北区7,155人(同7.0%)、中央区6,440人(同6.3%)と続いている。市の中心部から北部にかけての地域は市外からの転入者が多く、臨海部の地域は市外からの転入者は少ない。

一方、市内他区からの転入をみると、城東区が3,814人(市内他区からの転入者に占める構成比6.7%)と最も多く、中央区3,647人(同6.4%)、北区3,005人(同5.2%)、西区2,973人(同5.2%)、浪速区2,951人(同5.1%)、住吉区2,943人(同5.1%)、平野区2,917人(同5.1%)と続く。なお、臨海部については、市外からの転入と同様の傾向にある。

図表2-1-4-8

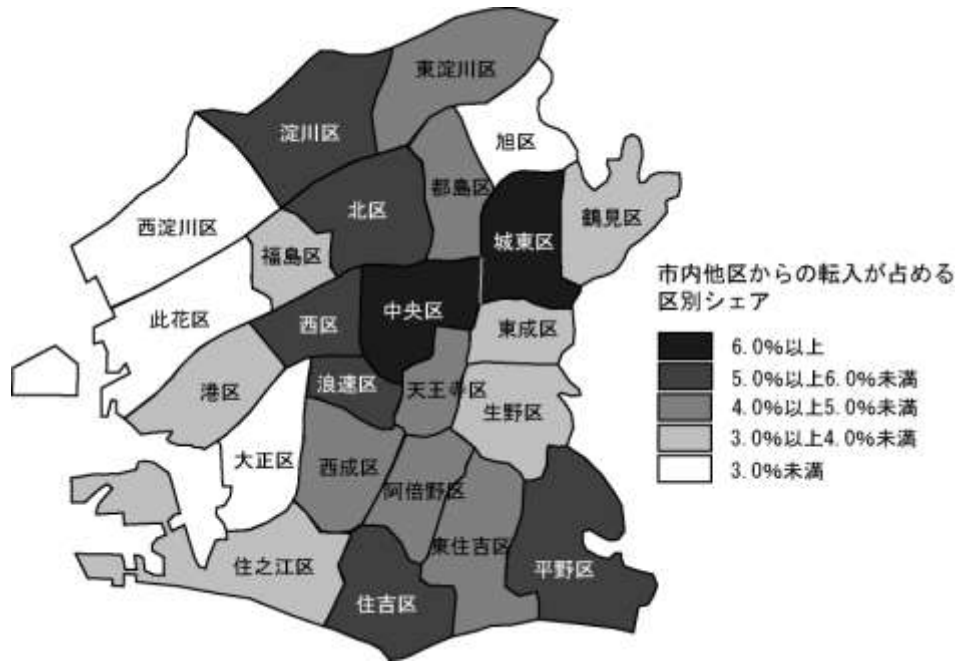
各区における前住地のうちの市外からの転入が占める区別シェア



資料：「第6回大阪市人口移動要因調査(平成20年度)」

図表 2-1-4-9

各区における前住地のうち市内他区からの転入が占める区別シェア



資料：「第6回大阪市人口移動要因調査（平成20年度）」

図表 2-1-4-10

各区における前住地のうち市外からの転入が占める区別シェア
および市内他区からの転入が占める区別シェア

	市外から (人)	構成比 (%)	順位		市内他区から (人)	構成比 (%)	順位
大阪市	101,490	100.0		大阪市	57,301	100.0	
淀川区	9,322	9.2	1	城東区	3,814	6.7	1
東淀川区	7,917	7.8	2	中央区	3,647	6.4	2
北区	7,155	7.0	3	北区	3,005	5.2	3
中央区	6,440	6.3	4	西区	2,973	5.2	4
城東区	5,795	5.7	5	浪速区	2,951	5.1	5
西区	5,408	5.3	6	住吉区	2,943	5.1	6
平野区	4,854	4.8	7	平野区	2,917	5.1	7
住吉区	4,619	4.6	8	東住吉区	2,822	4.9	8
浪速区	4,266	4.2	9	淀川区	2,793	4.9	9
西成区	4,182	4.1	10	西成区	2,598	4.5	10
鶴見区	3,811	3.8	11	天王寺区	2,532	4.4	11
都島区	3,596	3.5	12	東淀川区	2,496	4.4	12
東住吉区	3,473	3.4	13	阿倍野区	2,360	4.1	13
福島区	3,427	3.4	14	都島区	2,338	4.1	14
生野区	3,292	3.2	15	生野区	2,217	3.9	15
天王寺区	3,287	3.2	16	住之江区	2,192	3.8	16
阿倍野区	3,230	3.2	17	鶴見区	2,034	3.5	17
旭区	2,982	2.9	18	東成区	1,835	3.2	18
住之江区	2,957	2.9	19	福島区	1,812	3.2	19
西淀川区	2,953	2.9	20	港区	1,704	3.0	20
東成区	2,744	2.7	21	旭区	1,634	2.9	21
港区	2,605	2.6	22	西淀川区	1,461	2.5	22
此花区	1,819	1.8	23	此花区	1,259	2.2	23
大正区	1,356	1.3	24	大正区	955	1.7	24

資料：「第6回大阪市人口移動要因調査（平成20年度）」

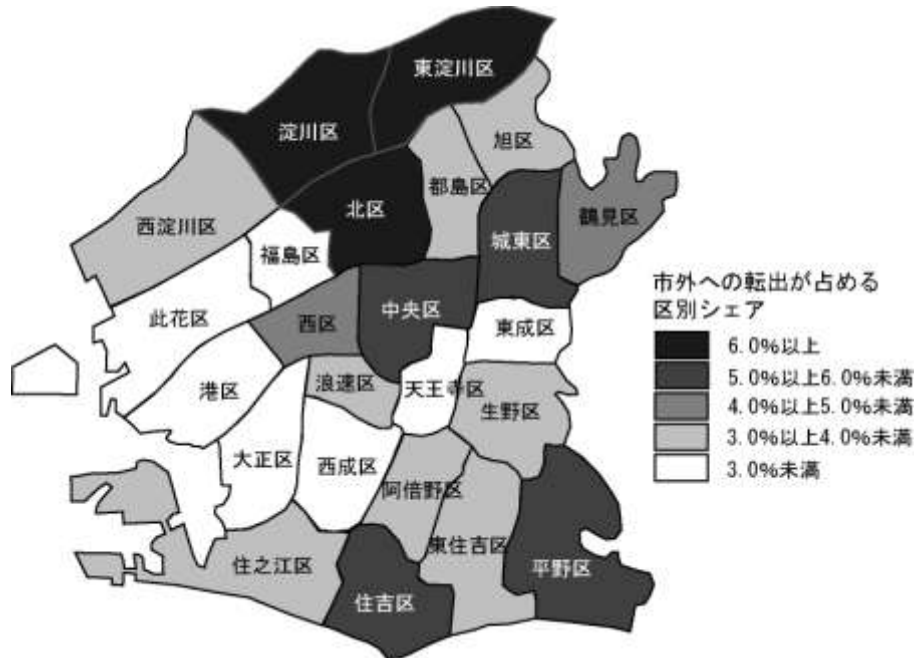
イ. 各区の転出先

各区における転出先のうち市外への転出をみると、淀川区が 8,339 人（各区における転出先のうち市外への転出が占める割合 9.0%）と最も多く、東淀川区 8,274 人（同 8.9%）、北区 5,602 人（同 6.0%）と続く。市の北部の区が市外への転出が多い傾向にある。

一方、各区における転出先のうち市内他区への転出をみると、中央区 3,490 人（各区における転出先のうち市内他区への転出が占める割合 6.1%）、城東区 3,240 人（同 5.7%）、北区 3,163 人（同 5.5%）、西成区 3,059 人（同 5.3%）、住吉区 2,959 人（同 5.2%）、東住吉区 2,958 人（同 5.2%）、浪速区 2,890 人（同 5.0%）、淀川区 2,879 人（同 5.0%）が多い。

図表 2-1-4-11

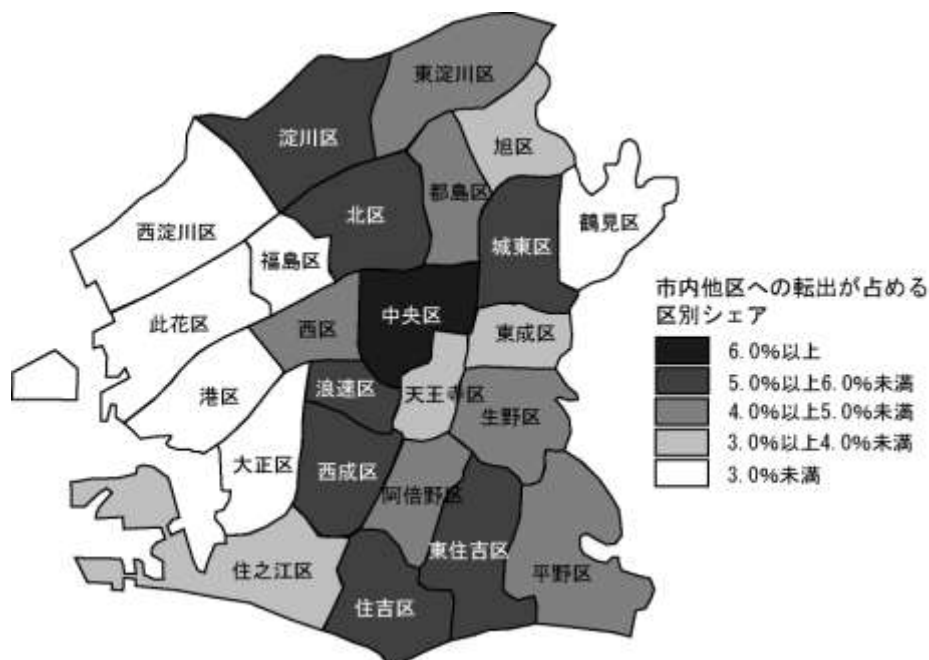
各区における転出先のうち市外への転出が占める区別シェア



資料：「第 6 回大阪市人口移動要因調査（平成 20 年度）」

図表 2-1-4-12

各区における転出先のうち市内他区への転出が占める区別シェア



資料：「第6回大阪市人口移動要因調査（平成20年度）」

図表 2-1-4-13

各区における転出先のうち市外への転出が占める区別シェア
および市内他区への転出が占める区別シェア

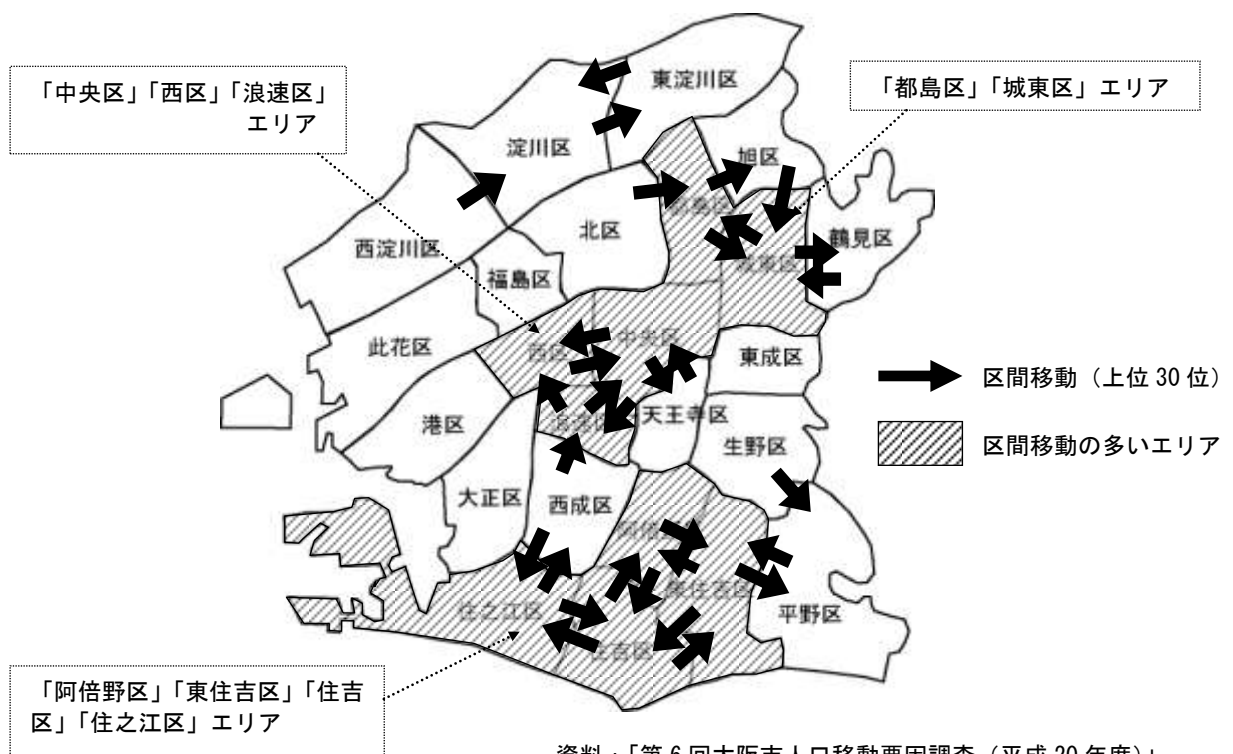
	市外へ (人)	構成比 (%)	順位		市内他区へ (人)	構成比 (%)	順位
大阪市	92,743	100.0		大阪市	57,301	100.0	
淀川区	8,339	9.0	1	中央区	3,490	6.1	1
東淀川区	8,274	8.9	2	城東区	3,240	5.7	2
北区	5,602	6.0	3	北区	3,163	5.5	3
城東区	5,382	5.8	4	西成区	3,059	5.3	4
平野区	5,223	5.6	5	住吉区	2,959	5.2	5
住吉区	4,927	5.3	6	東住吉区	2,958	5.2	6
中央区	4,719	5.1	7	浪速区	2,890	5.0	7
西区	4,144	4.5	8	淀川区	2,879	5.0	8
鶴見区	3,809	4.1	9	西区	2,778	4.8	9
東住吉区	3,629	3.9	10	東淀川区	2,771	4.8	10
都島区	3,545	3.8	11	生野区	2,576	4.5	11
住之江区	3,485	3.8	12	平野区	2,563	4.5	12
浪速区	3,326	3.6	13	都島区	2,485	4.3	13
阿倍野区	3,151	3.4	14	阿倍野区	2,349	4.1	14
西淀川区	3,080	3.3	15	天王寺区	2,249	3.9	15
生野区	3,033	3.3	16	住之江区	2,236	3.9	16
旭区	2,974	3.2	17	東成区	1,944	3.4	17
福島区	2,719	2.9	18	旭区	1,894	3.3	18
西成区	2,696	2.9	19	港区	1,650	2.9	19
天王寺区	2,668	2.9	20	鶴見区	1,632	2.8	20
東成区	2,486	2.7	21	福島区	1,510	2.6	21
港区	2,481	2.7	22	西淀川区	1,476	2.6	22
此花区	1,649	1.8	23	此花区	1,349	2.4	23
大正区	1,402	1.5	24	大正区	1,203	2.1	24

資料：「第6回大阪市人口移動要因調査（平成20年度）」

ウ．区間移動

各区から市内の他区への移動のうち上位 30 位をみると、「東住吉区から平野区へ」が最も多く、819 人であった。次いで「東淀川区から淀川区へ」が 732 人、「城東区から鶴見区へ」687 人、「淀川区から東淀川区へ」668 人と続いている。また、30 位までの移動の多くは、隣接区への移動となっている。また、個々の区についてみると、「都島区」「城東区」エリア、「阿倍野区」「東住吉区」「住吉区」「住之江区」エリア、「中央区」「西区」「浪速区」エリアの 3 つのエリアで区間移動、いわゆる隣接区への移動が多い。

図表 2-1-4-14 区間移動の状況



資料：「第 6 回大阪市人口移動要因調査（平成 20 年度）」

図表 2-1-4-15 区間移動の状況

順位	移動前		移動後	移動人数
1	東住吉区	→	平野区	819
2	東淀川区	→	淀川区	732
3	城東区	→	鶴見区	687
4	淀川区	→	東淀川区	668
5	平野区	→	東住吉区	663
6	鶴見区	→	城東区	589
7	旭区	→	城東区	535
8	都島区	→	城東区	528
9	中央区	→	此花区	501
10	西成区	→	住之江区	501
11	天王寺区	→	中央区	498
12	中央区	→	浪速区	495
13	東住吉区	→	住吉区	481
14	住之江区	→	住吉区	476
15	西淀川区	→	淀川区	470
16	住吉区	→	住之江区	465
17	北区	→	都島区	461
18	住之江区	→	西成区	460
19	住吉区	→	阿倍野区	449
20	住吉区	→	東住吉区	435
21	中央区	→	西区	431
22	西区	→	中央区	428
23	浪速区	→	西区	424
24	阿倍野区	→	東住吉区	422
25	城東区	→	都島区	421
26	阿倍野区	→	住吉区	410
27	生野区	→	平野区	407
28	都島区	→	旭区	405
29	浪速区	→	中央区	404
30	東住吉区	→	阿倍野区	394

資料：「第6回大阪市人口移動要因調査（平成20年度）」

5. 区別の就業構造

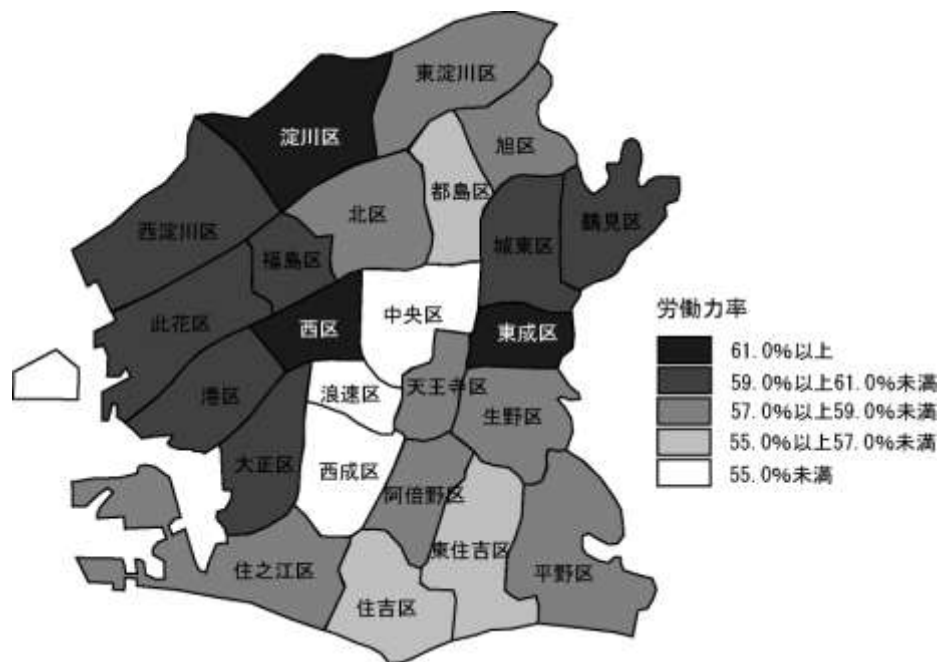
(1) 労働力状態

平成 17 年時点の各区の労働力率をみると、西区が 63.5%と最も高く、次いで東成区 61.7%、淀川区 61.1%となっており、市の西部～北西部及び東部で労働力率が高くなっている。一方、労働力率の低い区は、西成区 47.2%、浪速区 49.0%、中央区 53.3%となっており、市の中心部で労働力率が低い。

平成 17 年時点における労働力率が最も高い西区、平均的な値の生野区、労働力率の低い中央区に関して、過去の推移をみると、西区、生野区については、昭和 40 年頃までは労働力率は増加し、その後平成 7 年頃までは減少傾向となり、平成 7 年以降はその減少率が大きくなるという大阪市全体とほぼ同様の傾向で推移している。ところが中央区に関しては、昭和 40 年から昭和 60 年頃までは、労働力率は増加もしくは横ばいで推移していたが、昭和 60 年以降に減少を始め、平成 7 年から平成 12 年に急激に減少している。

※労働力率：労働力人口の 15 歳以上人口に占める割合。
(労働力人口は就業者と完全失業者の合計)

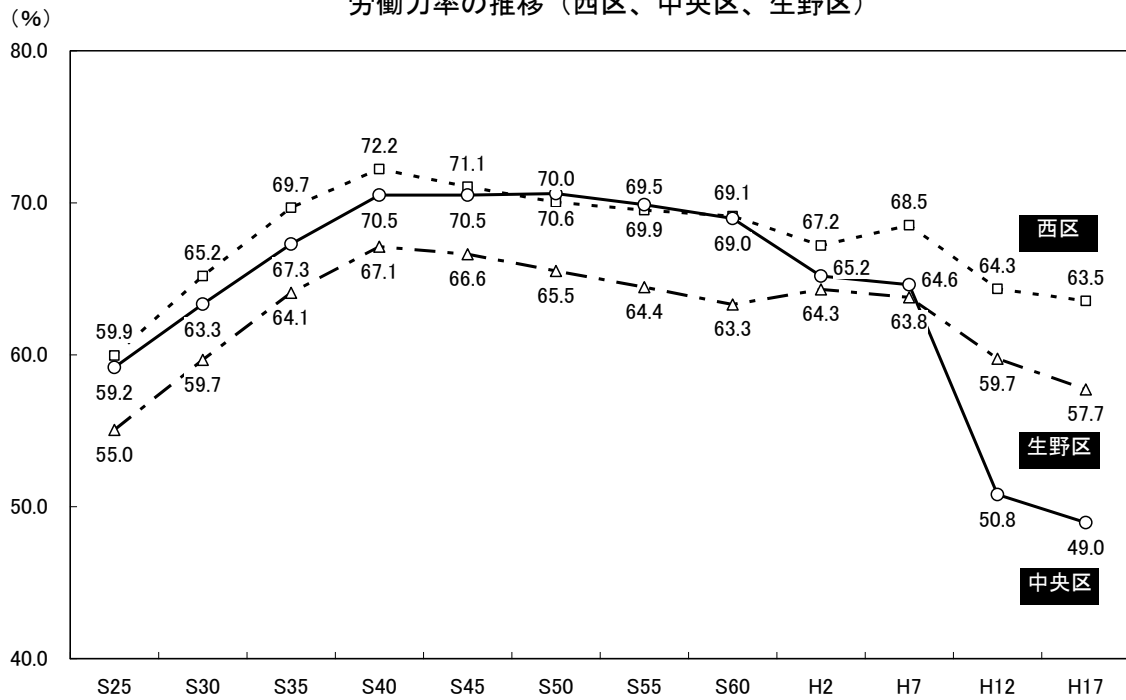
図表 2-1-5-1 各区の労働力率（平成 17 年）



資料：国勢調査

図表 2-1-5-2

労働力率の推移（西区、中央区、生野区）



資料：国勢調査

図表 2-1-5-3 各区の労働力率の推移

単位：%

	S25	S30	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
北区	60.3	65.6	70.5	72.2	71.4	69.6	68.1	67.5	67.2	67.8	59.3	57.4
都島区	61.0	63.2	67.4	69.1	68.0	67.0	66.1	65.8	63.8	64.5	58.5	56.7
福島区	58.9	64.5	67.1	68.9	68.8	67.5	66.5	66.5	66.4	67.0	63.4	59.9
此花区	57.1	62.1	64.1	65.4	65.8	65.3	65.0	64.9	65.3	65.8	60.6	60.2
中央区	63.6	71.1	75.8	76.5	74.2	73.7	72.1	71.2	70.4	70.1	65.9	53.3
西区	59.9	65.2	69.7	72.2	71.1	70.0	69.5	69.1	67.2	68.5	64.3	63.5
港区	60.4	62.7	65.2	67.0	66.4	66.1	65.7	65.6	65.3	66.4	62.0	60.2
大正区	60.3	61.7	65.0	65.1	64.9	64.5	64.2	64.6	64.3	64.7	60.4	59.9
天王寺区	57.8	61.7	65.3	67.7	65.7	65.9	65.7	65.2	62.6	65.5	61.7	58.4
浪速区	59.2	63.3	67.3	70.5	70.5	70.6	69.9	69.0	65.2	64.6	50.8	49.0
西淀川区	56.7	60.9	65.7	67.3	67.2	65.3	64.7	64.6	64.8	65.2	60.6	60.0
淀川区	-	-	-	-	-	66.3	66.4	66.8	66.5	66.8	61.5	61.1
東淀川区	55.5	60.2	63.4	65.3	64.9	62.0	62.6	63.5	64.1	64.3	58.9	57.1
東成区	57.1	62.8	66.9	68.7	67.9	66.5	66.1	65.0	65.6	65.7	61.1	61.7
生野区	55.0	59.7	64.1	67.1	66.6	65.5	64.4	63.3	64.3	63.8	59.7	57.7
旭区	54.2	57.7	61.4	63.3	63.5	62.0	61.1	61.3	61.8	62.1	57.4	57.1
城東区	55.7	60.6	65.3	67.3	66.6	65.4	64.8	64.7	64.8	64.8	61.7	60.3
鶴見区	-	-	-	-	-	64.5	63.9	64.7	64.3	63.8	60.6	59.9
阿倍野区	52.2	56.5	59.7	62.4	63.1	62.7	61.7	61.2	59.9	59.9	56.8	57.6
住之江区	-	-	-	-	-	63.3	61.9	62.2	62.2	63.2	59.3	58.6
住吉区	52.8	55.5	58.4	61.3	63.0	62.0	61.1	61.9	62.3	63.0	57.0	56.4
東住吉区	51.5	55.9	58.5	61.2	61.8	61.1	60.8	61.1	61.7	61.6	57.6	56.1
平野区	-	-	-	-	-	61.7	61.9	63.3	64.2	64.5	59.8	57.0
西成区	56.9	60.2	63.5	67.2	68.7	68.4	67.6	67.5	68.7	65.7	59.0	47.2

資料：国勢調査

(2) 就業状態

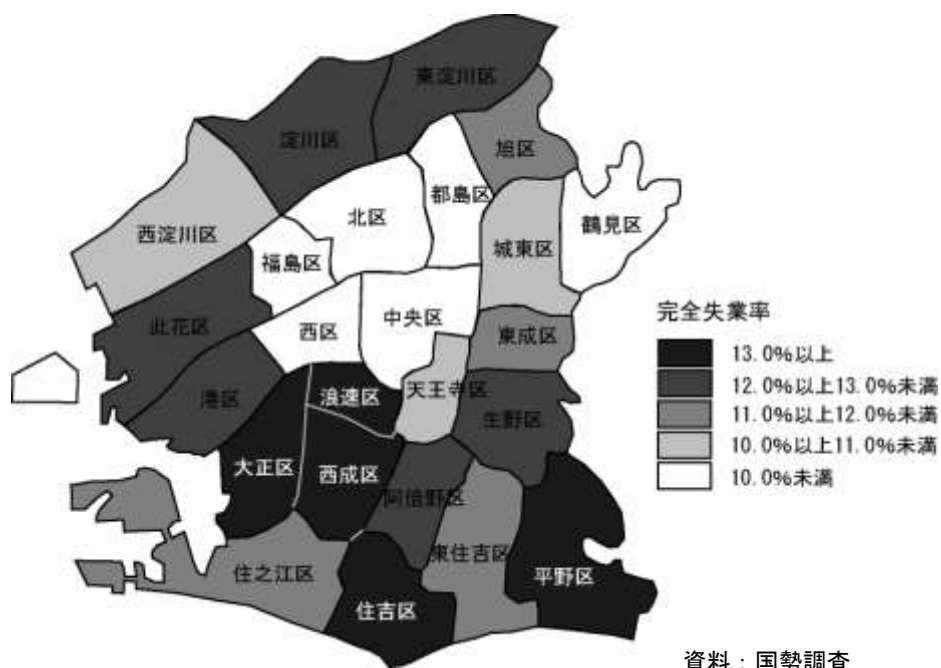
平成 17 年時点における完全失業率の高い区は、西成区 22.4%、大正区 13.6%、住吉区 13.6%、平野区 13.1%、浪速区 13.0%であり、東部を除く市内周縁部に完全失業率が高い傾向があり、特に南部が顕著である。完全失業率の低い区は、中央区 7.7%、西区 7.9%、北区 8.2%、福島区 8.4%、鶴見区 8.8%、都島区 8.9%となっており、市の中心部と東部は完全失業率が低い傾向にある。

昭和 25 年から平成 17 年の推移をみると、西成区、大正区、浪速区、港区、此花区は各年とも概ね完全失業率が高い状態にある。最近では、此花区、港区の順位はやや下がり、代わって平野区や住吉区の順位が高くなってきている。

※完全失業率(%) = 完全失業者 ÷ 労働力人口 × 100

注) 国勢調査結果から算出した完全失業率であり、「労働力調査」で用いる完全失業率とは定義が異なる。

図表 2-1-5-4 各区の完全失業率(平成 17 年)



図表 2-1-5-5 各区の完全失業率の推移

単位：%

	S25	S30	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
北区	3.8	2.7	0.9	1.5	1.4	3.1	3.2	4.7	4.2	7.3	6.7	8.2
都島区	3.4	3.1	1.0	1.6	1.7	3.2	3.6	4.9	3.6	6.2	6.5	8.9
福島区	4.5	3.0	1.0	1.5	1.4	2.5	3.1	4.2	4.3	5.8	7.6	8.4
此花区	4.6	4.0	1.4	2.5	2.0	4.8	5.2	7.1	6.8	8.7	10.1	12.4
中央区	2.4	1.0	0.4	0.6	0.8	1.6	2.4	3.9	4.2	5.7	7.3	7.7
西区	3.4	2.4	0.8	1.1	0.9	2.1	2.4	3.9	4.0	6.3	8.4	7.9
港区	3.8		1.7	2.6	2.5	4.7	5.4	6.8	6.9	8.2	10.4	12.3
大正区	4.1	4.9	1.5	3.1	2.2	4.7	4.9	6.6	6.6	8.8	11.1	13.6
天王寺区	3.6	2.5	0.8	1.3	1.2	2.3	2.8	4.1	3.5	6.7	8.2	10.1
浪速区	3.8	3.0	1.2	2.4	2.6	6.0	5.7	9.1	7.5	14.7	10.9	13.0
西淀川区	4.9	4.4	1.2	2.0	1.9	4.1	4.0	5.4	5.0	6.8	8.5	10.5
淀川区	-	-	-	-	-	3.7	3.6	5.5	5.3	7.7	8.2	12.0
東淀川区	5.6	3.9	1.3	2.1	1.9	4.0	4.1	5.4	5.0	7.6	8.9	12.2
東成区	4.5	2.7	0.9	1.5	1.5	2.9	3.2	4.4	4.9	6.8	7.5	11.5
生野区	5.7	3.4	1.1	1.9	1.6	3.3	3.6	5.4	5.4	7.6	9.3	12.9
旭区	5.7	3.5	1.2	1.8	2.0	3.2	3.7	4.7	4.6	6.8	7.6	11.1
城東区	5.5	3.3	1.0	1.7	1.5	3.1	3.3	4.7	5.0	6.2	8.2	10.0
鶴見区	-	-	-	-	-	3.1	3.4	4.8	4.7	6.4	7.7	8.8
阿倍野区	5.5	3.4	1.2	1.8	1.9	3.1	3.9	5.0	4.6	6.2	6.9	12.2
住之江区	-	-	-	-	-	3.9	4.4	6.2	6.1	7.5	9.2	11.4
住吉区	5.8	3.9	1.5	2.1	1.9	3.6	4.1	6.2	5.9	8.5	8.6	13.6
東住吉区	5.4	3.5	1.4	1.9	1.9	3.0	3.3	5.2	4.6	6.9	8.0	11.0
平野区	-	-	-	-	-	3.6	4.2	6.1	5.9	8.2	10.2	13.1
西成区	5.6	4.3	1.8	3.9	3.8	9.5	9.6	11.4	10.2	15.0	18.1	22.4

※網掛けは各年とも完全失業率の高い上位5区を示す

資料：国勢調査